



広報

横芝

横芝町の人口と世帯

〈3月1日現在〉

人口	13,681 (+26)
男	6,636 (+8)
女	7,045 (+18)
世帯数	3,488 (+2)
() 内は前月比	

二十一億の大形予算

町造りの基本重点に

昭和五十二年度の一般会計及び特別会計予算は三月七日から開催された定例町議会(会期九日)に上程され、原案どおり可決されました。

一般会計予算では、横芝中学校及び横芝小学校の防音事業、町道の舗装整備事業等をもりこみ十七億五千万円、国保会計で三億六千三百万円が計上され、町会計総額で二十一億一千三百万円の大形予算となりました。

大形予算を議会に提出した佐瀬町長は就任二度目の予算編成に当って次のような所信と施策をのべております。

長期を展望した 施策中心に編成

私が町長に就任致し、町政を担当致しましてより、爾来、二年の歳月を迎えようとしております。この二年間は、国も地方自治体も深まる財政危機の中で厳しい日々を連続でした。

昭和五十二年度におきましても更に低成長時代に突入致し、地方自治体の財政状況は、尚一段と厳しさが予想されますが、町民本位の自治振興のため、更に姿勢を正し懸命の努力を致したい所存でございます。

中央に於てはロッキード事件、地方に於ても各種のいまわしい汚職事件が続発しております。しかし、我が横芝町からは断じてかかる事件の発生絶無を期し、新年度

に臨む所存でございます。

扱て、最近に於ける我が国の経

済状況をみますと、昭和四十八年秋のオイルショック以来とられた

総需要抑制策の行き過ぎから不況とインフレが更に進行し、景気の

冷えすぎから所得の減少、個人消費の沈滞、雇用不安、鉱工業生産

や設備投資の急激な落ち込みなどから財政政策による景気浮揚策も

急速な効果があらわれず、昭和五十二年度の国家予算もインフレな

き繁栄への道程を探りながら赤字公債の大量発行による景気浮揚策をとっております。

この様なインフレと不況共存の経済状況下における当町の新年度

予算編成にあたりまして、新たに昭和五十六年を目標として新五ヶ

年計画を樹立致し、長期展望にたつた町造りの基本計画である産業

振興策、教育施設の整備、生活環

境整備、住民の福祉向上策を重点施策として編成致しました。

本年度予算総額は、十七億五千万円で昨年の当初予算は九億八千万円であり、決算見込み十二億五千六百万円と比較致しますと三九・三%増でございます。

収入財源の主たるものを申し上げますと、税収三億三千万円(五十一%増)、地方交付税四億三千万円(同十一%増)、国庫補助金四億七千万円、地方債一億二千九百万円、の四種で十三億七千万円となり収入財源全体の八〇%を占めて居ります。

歳出面に於ける主たるものを申し上げますと、人件費四億二千七百万円、前年に比較しますと五千万円増加で全歳出の二四・四%を占めて居ります。騒音対策による学校防音施設の整備費五億二千二百万円、全支出の三〇%を占めて居りますが、うち公園、文教補助三億七千八百万円を見込んでおり、差引き一億四千四百万円が町単独負担であります。

産業振興対策としては空港騒音対策事業としての裏側農業振興として成田用水土地改良区に基づく事業の推進と新島地区農業構造改善事業を柱として園芸・畜産の振興、農業振興会を主とした農政の拡充を重点に予算の投入を致しました。特に、空港裏側対策の一関

として大規模農道の整備を計画致し関係部落との連繋を密に致し、初年度として対策費を計上し計画路線を決定致したい所存であります。亦、住民生活環境の整備事業として生活道路、排水路整備費に苦しい町財政の中から六千二百万円を投入致しました。特に栗山分譲地地先の三号排水路整備のため調査設計費を計上し国の事業認可に入ります。また、懸案の古川本町地先の常習災害地帯に対する排水については、善新堂製本KK敷地の分譲計画に伴い併用計画を検討中であります。以上の計画は、根本的な下水道整備ではありませんが住民の要望の一端を解決致したい所存であります。

亦、永い間の懸案でありました給食センターの汚水処理問題も本年度二千万円の事業費により完全浄化施設を整備致し地域関係住民に迷惑のからぬよう致したい所存であります。

最後に住民福祉の向上については、弱者救済をモットーに母子家庭(八八世帯)の生活上、老人福祉の問題、児童遊園地(七カ所)の整備拡充、上堺保育所の定員増に伴う増築整備等を実施する所存であります。その他、東陽病院問題、広域行政組合関係、水道問題大総工業団地跡地の問題等についてはその都度所信を述べたいと存じます。